

地域創造学類カリキュラムマップ(学類共通科目)(平成23年度までの入学用)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ各コースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
学類共通科目の学習成果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。
② 技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③ 思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)	必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学ぶように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通して、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。
------------------------------	--

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果													
							知識・理解 理念目標・社会的責任	現状理解・把握	実践論・対処方法	技能・表現 調査・分析方法	伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度						
15000	地域創造学	地域創造学の基本的な内容と特徴を理解するとともに、誰もが生き生きと安心して暮らせる地域をつくるうえで、地域創造学がどのように活用できるかを、具体的な事例を通して理解する。	地域創造、福祉マネジメント、環境共生、地域ブランニング、健康・スポーツ	1	2		◎	◎												
15001	福祉マネジメント論	マネジメントについての基本的な考え方、登場背景を理解する。マネジメントについて肯定・否定的側面の両面から考察し、また保健・医療・福祉分野におけるマネジメントに限ることなく、マクロからミクロにわたるマネジメントとその関係分野について広い視野で理解を深める。	PFI、NPM、ケアマネジメント、リスクマネジメント、アドミニストレーション	1		2		○		◎		○								
15002	環境共生論	日本や世界の自然環境や環境資源の基礎論を理解し、環境を取りまく諸問題やそれに対応する社会動向を理解する。	環境再生、自然環境復元、循環型社会、環境教育、市民活動、環境行政	1		2		◎		○										
15003	地域ブランニング論	・地域をブランニングするとは何かを理解すること。 ・地域の将来ビジョンを描く主体は誰なのかについて理解すること。 ・地域ビジョンの策定にとって重要な観点は何か理解すること。 ・地域の人口動態と人口特性について理解すること。	地域計画、ブランニング、人口動態、都市、農村、地方財政、地域経済、歴史文化資源、人材育成、IT技術	1		2		◎		○										
15004	健康スポーツ論	なぜ「健康」や「スポーツ」が地域社会にとって重要課題として取りあげられているのかについて、学術的動向や医療、社会制度、マーケットなどの観点から学習する。	スポーツ、健康増進、健康科学、地域スポーツ、地域振興、発育発達、少子高齢化社会	1		2		○		○										
15005	人権論	・人権が、「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」(憲法97条)であること、その「保持」のためには、人々の「不断の努力」(同12条)が必要であることを理解する。 ・人権保障の対象であると同時に、公務員や専門職の場合は、人権保障のにない手となること、さらには他の人々の人権を尊重する姿勢を身につける。	基本的な人権、地域創造、人間の尊厳、自己決定、参加	1		2		◎		◎										
15006	地域社会学	地域コミュニティの実態について、近代から現代にいたる内外の地域社会学理論から学習することをおして、自分自身の身近な問題として考え、地域コミュニティに生きる生活主体としての視点を養うことができる。	地域コミュニティ、まちづくり、地域集団、都市-農村、ソーシャル・キャピタル	1		2		◎		◎										
15007	生涯学習論	人は、生きがいや楽しみ、健康、自己実現あるいは職業上の知識や技術を身につけるために様々な学習活動を生涯にわたり行っている。「学び」は、昨日と違う今日の自分、今日と違う明日の自分づくりという側面をもっている。このような生涯にわたる学習活動としての「生涯学習」について学ぶ。	生涯学習、社会教育	1		2		◎												
15008	地域情報学	ユビキタス社会を支える情報基盤技術をハードおよびソフトの両面から理解し、地域での情報化について学ぶ。	地域情報、ユビキタス社会、マルチメディア、データ解析、光通信、プログラミング言語	1		2		○		◎		○								